

令和5年度 千葉県ICTアドバイザー会議 開催結果（概要）

- 1 日時 令和6年3月25日（月）午前10時から午前11時15分まで
- 2 場所 県庁本庁舎5階 大会議室
- 3 出席者 委員：庄司委員（座長）、荒川委員、今泉委員、小池委員、白澤委員、
宮入委員、山口委員
県：デジタル改革推進局 板倉局長、木村次長
斎藤デジタル戦略課長、戸崎デジタル推進課デジタル化支援室長、
岩堀情報システム課長

4 議事概要

庄司座長の議事により進行

○ 議事（1）今後の戦略推進の方向性について

事務局から資料を用いて説明

各委員からの意見概要

【庄司座長】

- ・広報に力を入れていくという話があった。これはいいことだと思う。DXの取組の文脈で広報を頑張るといことなので、データに基づいてエビデンスベースで、「こういう広報で多くの人に届いた」などデータに基づいて取組をより改善していく、パイロットプロジェクトとしての色彩があってもいいと思う。データ活用も重要なテーマであり、広報は目に見えて改善しやすい分野なので、取り組んではどうか。
- ・デジタル化というとAI導入などの話になりがちだが、最もアナログで負荷がかかる部分を改善していくことをお願いしたい。無駄な書類提出や郵送による書類発送など改善できることがないか、よく把握し、見直していただきたい。

【白澤委員】

- ・全国的に、DX推進というのは、デジタル優先や技術革新が大きく取り上げられている。千葉県のDXは先進的ではないほうなので、むしろ特色もったDX推進に取り組んでいただきたい。
- ・広報の観点から、広告物・サイトの構築は直接的な広報でないと感じている。それよりも、県民の方が県のデジタルサービスを体験するということがDX化が進んでいく。身近に生活に密着している部分を広報と捉えて、取組を進めていただきたい。
- ・デジタル化は、県民の方が実感することが重要。短期的でなく中長期的な視点で投資すると思う。特定の事業者に限ることなく、いろいろな県民・事業者が取り組めるような形を意識しながら費用対効果を検討されたい。

- ・トランスフォーメーション、「X」と言われる部分に、より重きを置いて取り組んでいただきたい。風土を変えるという話や広報の話もあったが、県民との協創を中心にトランスフォーメーションができればいいと考えている。

【宮入委員】

- ・6年度の取組の252施策に増えたことは素晴らしいと思うが、総花的で何がDXなのか分かりにくいと思う。戦略は、何を梃子にどこを目指すのか分かるようにしなければ実現できないが、このような示し方だとぼやけてしまう恐れがある。
- ・行政の管理としては取組みの一覧にすることは必要だと思うが、DX化にはレベルがある。教員にPCを配布する予算があるが、デジタルイゼーションをするためにPCを配布する、そこから紙でやっていることを変えていくなど、どういう段階を経て、最終的にどのようにトランスフォーメーションするのか。トランスフォーメーションは、組織の文化や価値観を変えていく、県民との関係性も変えていくという意味。
- ・従前から、会議の事前説明のオンライン化、配布資料の省略、議事録作成の省力化などを言い続けて、今では当たり前になっている。このように、変化というのは何のためにやるのか、そのためにはどのようなやり方があるのか、デジタル化することでどのような成果を得られるのか、その成果をモニタリングするというで進んでいく。何かをしてあげるとか依存関係ではなく、対等なパートナーとして共通の目的を見据え、どのような成果を出すためにやり方を変えていく、そこにデジタルを活用していくことが分かるようにすると、伝わりやすくなると思う。立体的に時間軸で変化の度合いを見えるようにしていくといいと思う。

【山口委員】

- ・広報に力を入れることはいい。具体的なものがあって広報ができるから、そこができていくかどうかだと思う。広報には、ガーディアンが存在が必要だと思う。行政だけでなく会社もそうだが、ガーディアン、守護神がいないとだめになり、守護神がしっかりしていないともっとダメになる。県がCIOを配置して守護神を作ったのはいいと思うが、そこに本気度が入って意味合いができてくる。本気かどうか、県民に、日本に、世界に見えるように広報を行う。
- ・先日、役所での印鑑証明の取得に、1時間半かかった。職員はやる気を持って取り組んでいるが、人海戦術ということが問題であった。DXを使いたくても使えないところもある。そこには何か理由がある。そのどこかを見つけていく必要がある。
- ・DXは技術であり、先の先の先の技術でインパクトがあり、皆がしのぎを削っているのが世界の潮流であるということを理解しておくことも必要。
- ・「スマート県庁」という言葉があった。私の会社名にも「スマート」が含まれているが、

いまだに「スマート」の意味が十分に理解できていない。「スマート」を語ることは難しいということ踏まえて、言葉を選んだ方がいいのかなと思う。

【小池委員】

- ・現在のDXの浸透率や認知率が気になる。施策の数も増えて、素晴らしいと思うが、やっている感を出すために数を増やすよりも、使っている県民の増加や認知率・浸透率の向上に関するKPIを持った方がいいと思う。
- ・広報活動にあたり、基本的なことだが、暮らしや産業など4分野について、同じ内容を同じメッセージで届けてもダメ。ターゲットによって、メッセージや届きやすさがそれぞれに必ず違いがあるので、誰に（どの分野に）、どのようなことを（その分野にささるメッセージ）、どうやって（具体的な広報手段）広報していくのかをしっかりと整理していくことに留意いただきたい。

【今泉委員】

- ・DXを進めていくには、KPIを設定して、どれだけ達成できたのか、キャストを戻しながら、パラメーターをいじっていく。そこをデータアナリストに見てもらう。そこをやっていけば、進むものは進むので、手慣れた業者もいると思う。
- ・それより気になったのは、いろんな施策をやっていることはいいが、表現が行政側からの表現になっている。利用者にとって何が良くなっているのか資料を読んでもよく分からない。利用者にとって、どう変わったかというのを分かりやすく表現してもらいたい。

【荒川委員】

- ・今回の資料は、以前と比べると見やすくなっている。ロゴマークもソフトな感じで、受け入れやすい印象を受けた。県が実施する施策は幅広くあるので、網羅すべき部分と尖っているもの、それらの特徴を見やすく、ポイントを絞った内容や最新の動向とかをうまく表現できればと思う。
- ・広報とは何かを考えると、県が何をやっているか周知するとともに、気持ちを一つするために方向性を出すところだと思う。今後開設するポータルサイトでは、網羅的に出す部分と尖った部分をバランス良く表現してもらいたいのかなと思う。さらに、いろいろな業界団体があるので、そうした団体の要望を吸い上げるような機能もあればいい。
- ・「令和4年度の取組状況」に記載のある、千葉県DX推進協議会における産官学民連携について、県と連携して当協会もイベントを開催していて、「ちばDXフォーラム」も昨年11月に開催し、多くの方に御参加いただいた。コロナも収束してFace to Faceの

会合、顔をつきあわせて話をするのでそこで生まれるものも出てきたりするので、これからも連携しながら進めていきたいと考えている。

【庄司座長】

- ・山口委員の「スマート」とは何かという部分や宮入委員からの総花的になっているという指摘から、絞り込んで掲げていくということの大事さを感じた。ただし、目標を設置したり言葉を充てて終わるのではなく、むしろそこから皆で議論や試行錯誤をしながら決めていくのが、DX的かなと感じた。

【宮入委員】

- ・マトリックスで、それぞれの事業が、今どこにポートフォリオとして位置付けられていて右上に向かっており、現在地はどこにいるということを視覚化した方が全体像が見えて良い。外部の方が見たときに視覚化することが大事ではないか。

【庄司座長】

- ・見える化が重要という指摘。その意味から、小池委員からのKPIを意味あるものに設定していくという観点が大事だし、それが一人歩きしないようにガーディアンなど支える体制も必要だと思う。

【山口委員】

- ・今回の資料は、上から目線が多いと感じる。それは千葉県だけでなく全国的に普通のことなのかもしれないが、それをどうしていくかだと思う。そこに目線を置かないと同じことを何度も繰り返すことになる。そこをお願いしたい。

【庄司委員】

- ・共に取り組んでいくということが重要だと思う。

【白澤委員】

- ・デジタル化について、庁内にDX推進リーダーを設置して、部署から提案が出たと聞いている。他の基礎自治体からは、部署から提案が出てくるような話は聞かない。千葉県は順を追って体制を整備してきた実績も出ていると思う。今日は、さらに一歩ということで、委員からの助言が出ていると思う。成果は出ているので、引き続き一緒に頑張っていたきたい。

○ 議事（２）その他

事務局からの説明はなし

【今泉委員】

- ・先ほど部署から意見が上がっている旨の話があったが、部署から上がってくる段階だとデジタルイゼーションが多く、デジタルトランスフォーメーションにするには部署横断的な連携が重要になってくる。今後はリーダー間で連携を図っていくものと思うので、頑張っていたきたい。

【山口委員】

- ・人材育成について、以前マイクロソフトとの協定を締結していたと思ったが、その後どうなったか伺いたい。

【事務局】

- ・人材育成について、特に意識改革に力点を置き、幹部向けの研修やツールに関するハンズオン研修を実施してもらった。当初の想定から踏み込めていない部分もあり、官民連携・産業界との連携について提案して協力していただく環境を作っていきたい。

【山口委員】

- ・世の中の潮流やスピードと見比べる必要がある。「やっています」で終わってしまっは最悪なこと。
- ・AIとは、使うものであり、何に使いたいかというデータがほしい。データを使ってやりたいことがあるから、AIを使う人は徹底的に使っている。やりたいことがあって、DXになっている。そこを間違えると、DXが目的になってしまう。これが大事なこと。先ほどの役所の人海戦術の話もDXの話になる。いろいろなレベルでDXが出てくるが、トップを走っている人たちがAIで何をしたいのかという、データを利用してシミュレーションに使っている。そこを理解してAIの話をしないといけない。人材育成も、どの人材を育成するか、期待値でここまでの人材を育成してほしいという、高いボールを投げていかなければいけない。

【庄司座長】

- ・AIを使うことを目的として議事録で使うという発想ではなく、県にとって問題が出てきた時に、AIでも何でも使えるものを使う、そのような持っていく方が正しいのだと思う。例えば、県はキョンの対策で苦労しているが、デジタル技術だけでは解決できな

いが、使えるデジタル技術はいくつもある。さまざまな手段を駆使するなかでデジタル技術も使って解決に取り組んでいくようなストーリーが作れると、分かりやすい。

- ・ 県が独自に取り組む一方で、国からもいろいろやれと言われていたのが、現在の自治体の状況だと思う。令和7年度末というのが、国の取組の期限の一つとして設定されている。特に県内の町村が、国からのオーダーに人材不足等で応えられない、プロジェクトマネジメントが回らない状況になっていくおそれがある。他県では、県が全体の底上げ、市町村を支援している地域もあり、差がついてきている。三重県では、人材のプールを作って派遣したりしている。県全体を支えるために、県ができることを強化していくことも期待している。

【宮入委員】

- ・ 成果について、初期設定することも重要だが、変革した後はそれが当たり前になってしまう。そこで、変革により、どう変化したか便利になったのかを投げかける形で広報するのもいいのかなと思う。例えば、駅の券売機の自動化や銀行のATMなど、人々は当初は分からないことや変化に対して不安なので抵抗したが、いつの間にか変わったことが当たり前になっていく。「DXの取組で変わってきたと思いませんか？」と自分事として捉えてもらえるような投げかけをする。プロダクト側の視点ではなく、受け手側の視点で、変化を享受するライフスタイルを広報する。また、職員であれば、働き方改革でどのように働き方が変わってきたのか自覚して進めることで、加速化していくのではないかな。変化は、量的には計りにくい。共感でムーブメントを作るのが大事。

【白澤委員】

- ・ 従前の「ICT推進戦略」の時、策定後の事業の進捗チェックをしていた。そのときの意見で、チェックはしなくてもいいのではとコメントした。その真意は、チェックだけで終わってしまうのは、次の改善につながらないということなので、是非、具体的な事業のチェックだけで終わらないように意識してもらいたい。
- ・ チェックの項目に、予算や件数など定量的なものだけでなく、トランスフォーメーションということを踏まえて、DXによる変化、数値で把握しづらい部分も別の項目でチェックしていただけるような指標になるといいと思った。

【庄司座長】

- ・ そろそろ時間だが、このようなディスカッションの時間は重要だと思う。是非アドバイザー会議を使っていただきながら、一緒にDXを進めていければと思う。

【山口委員】

- ・一つ最後に、配列について、事務局も一緒に入るような形にしてもらえれば、ずっと話しやすいし、次回検討してもらいたい。